

なんだか似てお?

むかし陸軍 いま東電

戦争と原発の構図、そして破綻

毎週ご迷惑をおかけしている「里のギャラリー」。描いている鈴木サトさんは、あと半年で80歳。聞けば、かつてはバリバリの軍国少女でした。鬼畜米英とたたかい、天皇のために死ぬことこそが日本人の道と固く信じていたそうです。

ところが、敗戦後の大転換。学校も大人も信じられなくなって、女学校は中退。先生にも世の中にもダメされていた、教育の力は恐ろしいというのがログセでもあります。

と、昔話を重ねたくなったのは、右のような作文を読んだからです。

福島県の原子力安全対策課が発行している「アトムふくしま」という広報誌(04.3.28、臨時増刊号)からの抜粋です。

いま、この作文を本人が読んだらどんな気持ちに?と問うのは酷だね。でも、これを優秀と持ち上げ、誌面に掲載した先生や県の職員の懺悔は聞いてみたいものです。

核燃サイクルの虚構は伏せつつ、100%輸入のウランを「準国産」と書かせ、低コストでクリーンで半永続的なエネルギーと思わせ、町の誇りとまで言わせています。あたかも原発の安全神話が、戦争中の神国=軍国教育と重なってきませんか。

かつて戦前、たとえば士官学校を経て、軍隊で昇進することは、まさにエリートコースだったはずです。



さしづめ今なら、東大を経て、電力会社で出世というコースかな。

軍の仕事をしていれば儲かったように、東電の仕事をしていればカネになるのも同じ。発せられる「大本営発表」も、あげくのはての取り返しのつかない破綻まで、そっくりの



里のギャラリー 169

構図に見えてしかたありません。

ところで、サトさん。^{あらひとがみ}現人神とあがめさせられ、たくさんの命を奪った最高責任者を許せないと怒るくせに、いまだに「天皇」と口にするとき「陛下」までくつついてしまうので笑っちゃいます。同じように、原発の安全神話もけっこう根深いかもね。

・・・今回調べた結果、私達が今後も今も生活を続けていくには、原子力発電が不可欠であることがわかりました。原子力発電は、現在開発されている方法の中で、最もクリーンな、百年後も使えるエネルギーだからです。私達は感情的な押し付け合いをやめて、真剣に五十年後の世界について話し合う必要があるのではないのでしょうか・・・ (浪江中3年)

『原子力発電』と聞いて思い浮かぶのは、『危険』という言葉でした。原子力について、全く知識がなかったころのことです。
(中略) 原子力発電所は、富岡町の誇りです。原子力発電所のある町の住民として、原子力について正しい知識を身につけ、『原子力発電は危険だ』という固定観念を捨てるのが大切だと思います・・・ (富岡中3年)

・・・日本は、とても資源が乏しい国なので、ウランというものは日本にとって、『準国産』と呼べるものです。それに、発電にかかるコストは1kWhあたり九円と、とても安い価格で発電することができ、燃料費の割合が低いので、安定した価格で電力を供給することができます。
(中略) 現代に生きる私達は電気のない生活は、もはやできないでしょう。できたとしても、長続きはしないのではないかと思います。それならば、環境により発電が必要とされます。それが、原子力発電だと思います。原子力発電は、未来の地球に、未来の私達になくしてはならないものだと思います・・・ (広野中3年)